

一般質問通告書

受領日時 令和 7年11月 26日 午前11時45分 10番 氏名 椎名 志保

質問項目	質問の要旨
1.大雨による農地被害への対策を	<p>(1)8月9月の大雨による被災は、住家だけではない。多くの農地も河川の氾濫により冠水し、土砂や木々などが稲刈り間近の田んぼに流れ込んだ。度重なる被害に苦しむ農家や、農業法人も経営に苦慮している。被害にあった農地に対し、町として支援を行う考えはないか。</p> <p>(2)全県各地が毎年のように大雨災害に見舞われ、地元はもちろん多くの地域で復旧作業が続けられている。業者が確保でき、来春の作付けに間に合うように田んぼからの土砂や流入物除去に目途は立っているか。どういう状況か。</p> <p>(3)8月から9月にかけての大雨被害について、9月6日に知事が現地視察に訪れている。その際、5項目についての要望書が手渡されており、農地被害に対する要望も明記されていた。その後、県から前向きな回答や示されたことはあるか。</p> <p>(4)これまで馬場目川で行われた伐木や堆積物の除去は、確かな効果があった。河川から農地へ越水する明らかな原因となっている場所を具体的に示し、堆積した土砂を除去し河道を確保するなど、県に対し強く要望することはできないか。</p>
2.教育長就任にあたり、町の教育の今後をどう考えるか。	<p>(1)小玉教育長は、県内各小学校で教鞭をとられていただけでなく、教員の相互派遣事業で秋田県から初めて沖縄県へ派遣された実績がある。また、秋田大学教育文化学部附属幼稚園の副園長や秋田大学客員教授の経験もおありだ。これまでのご経験から、いろいろな視点での教育施策を期待している。</p> <p>就任にあたり、当町の教育を今後どのように進めていかれるのか、考えを伺う。</p> <p>(2)令和4年、もりやまこども園が創立50周年を迎え行われた記念式典において、教育長は五城目小学校長としてご講演された。幼小連携の重要性や必要性を熱く語っておられた。今一度、幼小連携に対する教育長のお考えを伺う。</p>

<p>3.今後のクマ対策は</p>	<p>(1)出没が多発するクマの駆除については、猟友会会員に過重負担が生じている現状である。他の自治体においては、ハンターへの報奨金を設けているところや、県も奨励金の支給を行うとしているが、災害とも言えるこの状況で猟友会に頼らざるを得ないままでいいのか。ガバメントハンター募集に乗り出す自治体も出てきた。人的手立てが必要ではないか。クマ駆除について、今後の対応を問う。</p> <p>(2)クマが里に下りて来ないような生息環境の管理や整備も考えていかなければならないのではないかと。先日の岡山県西栗倉村の視察では、産業としての森林の価値を学ぶと共に、適正な森林の管理の重要性も学んだ。森林の適正な管理・保全、人とクマの棲み分け、ゾーニング管理をどう行っていく考えか。</p> <p>(3)クマの出没が長期化する中、児童生徒の通学はスクールバス利用を除いては、基本的には保護者の送迎に委ねられている。通勤への影響もあり、保護者の負担となっている場合もある。地区外のスクールバス利用の検討など、児童生徒の通学に対し、考えはあるか。</p> <p>(4)クマの出没以来、学童保育すずむしクラブの利用は普段の2倍近い80名ほどの利用となっており、わーくる2階のメディアセンターが高学年の学習の場に利用されていると聞いている。今年からすずむしクラブは全学年対応型となったが、低学年・高学年それぞれの過ごし方に支援員が苦慮する様子も見られる。クマ出没の措置にとどまらず、今後もメディアセンターの活用で、高学年の静かな学習の場や読書の機会の確保を考えてはどうか。</p> <p>(5)クマの出没による影響は、町民の散歩の日課をも奪っている。身体を動かす機会の減少となり、介護予防の低下を招いている。潟上市はクマの出没による市民の屋外活動の制限を受け、市内の体育館の無料開放を行っている。この機会に広域体育館を開放し、以前提案のあったインターバル速歩に取り組む機会にしてはどうか。広域体育館の一般開放と併せ、考えを問う。</p>
-------------------	--